



全農長野県本部情報／グリーン レーダー Vol.457

Contents

A-Policy 重点事業方針

- ・平成29年度 生産販売部事業推進方針
- ・平成29年度 野菜・花き重点事業方針の取り組み
- ・平成29年度 畜産酪農部事業取り組み方針

JA改革 中期事業計画（平成28～30年度） 自己改革の進捗状況について 4～6

A-Reports 10

- | | |
|-----------------------------------|-------------------------------------|
| ・長野県体育協会に長野米2.5トンなどを寄贈 7 | ・A-Board／〈信州巨峰クリームコロソ〉新発売のお知らせ... 9 |
| ・「第1回協同経営SSマネージャー全体会議」を開催 7 | ・JA全農長野の事業現況 10 |
| ・「第2回ナガノきのこ大祭」に出展 7 | ・6月の動き 10 |
| ・グループ会社紹介／株式会社 全農長野計算センター 8 | ・6月のラジオ番組表 10 |
| ・新採用職員紹介 9 | ・編集後記 10 |

生産販売部

平成29年度 生産販売部事業推進方針

事業環境と課題

本県農業生産の状況は、一部では経営規模の拡大や法人化の進展が見られますが、総体的には生産者の高齢化による経営規模縮小等の影響が大きく、生産基盤の脆弱化が続いています。生産力維持に向け、販売価格の確保と生産コスト低減による農業所得向上が最大の課題となっています。

政府は農業競争力強化プログラムに基づき、農業者の自由な経営・規模拡大・法人化等による強化を図るため、様々な制度改革を進めています。JAグループはその存在意義を示すため、真に生産者やJAに評価される事業に取り組み、改革を進めなければなりません。

消費流通面では、人口減からの需要減少に加え、消費形態の多様化が進み、安定的で効率的な供給が必要な業務加工需要と、需要変動と産地状況に即応した小売需要への対応が求められます。加えて、卸売市場にも国は改革の目を向け、今後の流通の変革は予断を許さない状況にあります。

一方で国内産地に目を向けると、本

県以上に生産基盤が脆弱化する産地や、温暖化からの作柄低下や輸送事情の悪化が深刻な産地が見受けられます。したがって、本県の地理的・気象的なメリットは拡大している品目が多く、実需者や市場からの期待は大きいといえます。

このように需要や流通の多用化と同じく、産地においても生産者の階層分化や経営の多様化が進み、それぞれに異なった生産者ニーズがあります。JAグループは、需給調整力の発揮と共に、生産者毎の異なるニーズと需要を結びつける生産販売企画の提案が求められています。

JA自己改革重点取り組み事項

- 前述した課題に対し、次の4点について重点的に取り組みます。
- (1) 生産基盤の維持拡大のための多収・穫省力化栽培や施設化の推進ならびに計画生産の徹底。
 - (2) 共販率向上に向けた集荷対策として、多様な生産者への販売企画提案

の実施。

- (3) 業務加工需要への対応強化・長期貯蔵販売・海外輸出などによる商品提供力の強化。
- (4) JA 県本部 一体となった長野米集荷の推進と販売力の強化。

事業計画必達方策

29年度事業計画必達に向け、次の5点に取り組みます。

- (1) 営業課及び販売事務所の営業情報を基に、大規模生産者・農業生産法人等への品目提案・販売企画提案及び適正生産推進品目の代替品目提案を行い、生産数量の確保及び生産・販売の計画性と品目の多用化を図ります。
- (2) 需要に応じた品目の優良な苗木・種苗・種園の供給体制の整備と強化を図り、計画的生産振興を進め生産基盤の維持拡大を図ります。
- (3) 長野県農産物の売り場拡大に向け、機能ある卸売会社や仲卸との連携を強化し、実需者に対する総合品目の営業を推進します。また、業務・

- 加工需要への対応を進めるとともに、長期貯蔵販売、買取販売、海外輸出等への事業展開を行います。
- (4) 「信州三ツ山マーク」「信州力」「総合宣伝キャッチコピー」などを利用し、JA全農長野ブランドの認知度向上を図り、品目横断による総合宣伝を強化します。
- (5) 米30年問題プロジェクト結果を実行するとともに、長野米の品質向上と実需者確保を一層強化し、長野米の安定的生産・販売を確保します。

【平成29年度取扱計画】					
	29年計画	28年計画	28年実績	計画比	実績比
米	穀 19,150,000	18,310,000	17,464,817	105%	108%
果	実 35,460,000	34,510,000	35,632,147	103%	99%
野 菜	花 65,475,000	63,365,000	69,274,508	103%	90%
き の	こ 24,300,000	24,300,000	22,071,166	100%	107%
営 業	15,000,000	14,500,000	14,269,603	103%	104%
野菜種苗センター	215,000	215,000	222,034	100%	95%
合 計	159,600,000	155,200,000	158,934,275	103%	97%

野菜花き課

平成29年度 野菜・花き重点事業方針の取り組み

28年度事業実績および29年度事業計画

平成28年度の野菜花き課取扱実績は、692億円（計画比109%。前年比95%）と4カ年連続で事業計画を達成することができました。近年、気象変動が激しく生産安定対策、契約的取引の履行等課題はありますが、大消費地に近い地理的優位性、標高差を生かしたリレー生産、南北に広い立地条件等、地域の特色を生かした多様な品目が生産される本県に対し、消費地からの期待は一層高まっています。平成29年度の事業計画は、654億円（H28計画比103%、H28実績比95%）とし、中期3ヶ年行動計画（自己改革工程）を実践するとともに、本会部署間の相互連携、JA・生産者の皆さんへの情報提供と意思疎通を一層強化し、信頼され魅力ある産地形成をすすめる生産者手取りの安定確保を図ります。

重点推進方針

(1) 野菜（抜粋）

- ① 主力品目の需要に見合った計画生

- 産・計画販売を徹底し、販売価格の安定を図ります。（特に夏はくさい、レタス類（リーフ系レタス））
- ② 本県に要望の高い果菜類（重点品目Ⅱミニトマト、キュウリ）の遊休施設利用、新規栽培者への推進を図ります。
- ③ 加工業務原料野菜の取組拡大および多収穫省力栽培方式を推進します。
- ④ 中長期的な出荷予測に基づく小売価格誘導と売り場作りを行い、消費宣伝事業の効果的な実施による需要の活性化と円滑な販売に取り組みます。

(2) 花き（抜粋）

- 本県産花きに対する市場の期待と評価は非常に高く、喫緊の課題といえる生産振興を強力に進めるため、「花きグループ」として広域的な業務展開による、販売と連動した生産振興を行い生産量の拡大を図ります。
- ① JAとともに、花き栽培が可能な組合員に対し、主要品目や地域の特産品目など多様な提案を積極的に行います。

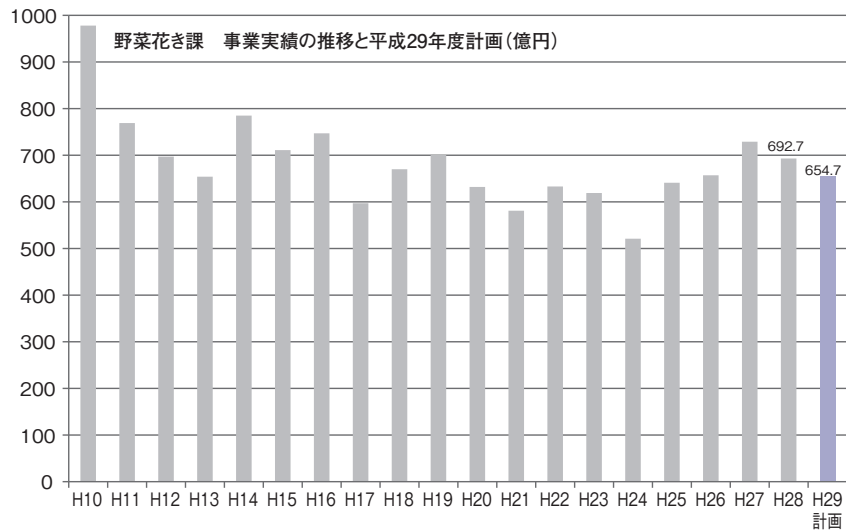


「量販コギク」栽培指導講習会の様子

- ② 需要の実態を見極め、多収穫省力型栽培方式など商品に見合った専用栽培の拡大を進め、顧客への取引提案を行います。
- ③ JA長野県としての重点顧客を明確にし、JA長野県として安定取引が出来るようJAと一体となつ

た供給販売体制を築きます。

- ④ JA営農技術員が生産振興による生産拡大、産地作りに積極的に取り組めるよう、技術継承を中心とした人材育成への一層の支援強化を進めます。



畜産酪農部

平成29年度 畜産酪農部事業取り組み方針

「信州プレミアム牛肉」「信州アルプス牛」「信州ポーク」「農協牛乳」「信州産鶏卵」など、県内ではＡ・コープ店舗や銘柄取扱い指定店を中心に、また、県外では老舗の小売店舗からアツパージェードの量販店まで、信州産の畜産物や酪農製品は、多くの皆様に愛され、ご利用いただいています。

しかし、その生産基盤は、高齢化による廃業や後継者不足、素畜価格や初妊牛導入価格の高騰などにより、厳しい状況にあります。また、ＥＵや米国との二国間交渉の進展状況により、またもや、輸入畜産物の圧力が強まりそのような気配です。

このような状況ですが、畜産酪農部では、29年度事業計画必達を目指し、次のとおり事業に取り組んで参ります。

畜産酪農生産基盤の拡大強化

- (1) 空舎を利用したＪＡグループによる補完的生産事業の取り組みを進めます。
28年度は、２ＪＡ管内で肉豚肥育農場や和牛繁殖センターを立ち上げました。29年度も、肉豚肥育農場や交雑牛肥育に取り組めます。
- (2) 新ＥＴシステムの拡大やＩＣＴ技術の活用による生産性の効率化に

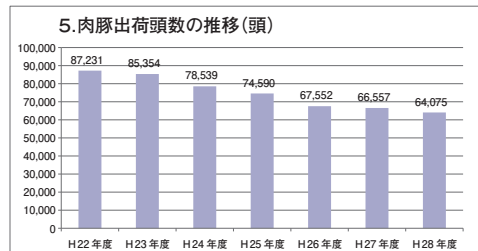
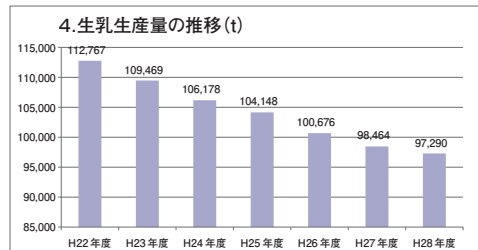
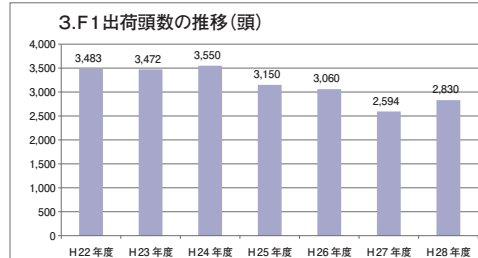
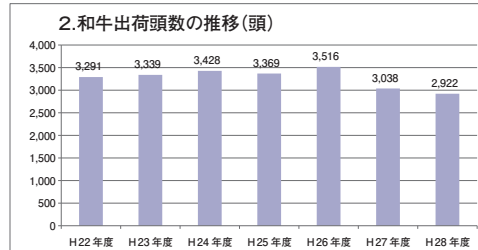
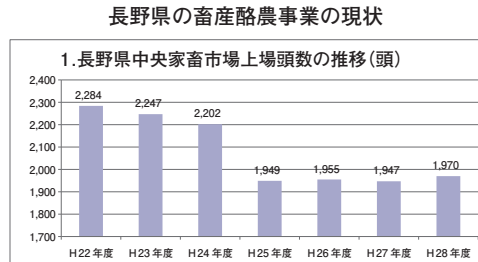
取り組みます。

新ＥＴシステム(まとめて移植)は、28年度184頭の受精卵移植を実施しました。発情発見(牛歩)や分娩監視(牛温患)、乳汁による妊娠判定などＩＣＴ機器や新技術の導入にも取り組みます。

信州産ブランドの販売強化ならびに生産コスト削減、生産性向上指導による農業所得の増大

- (1) 信州プレミアム牛肉「信州アルプス牛」「信州ポーク」の県内外での販促活動と㈱長野県Ａ・コープとの連携

販促ＤＶＤの活用や資材作成により、関西地域における「信プレー」ブランドの更なる定着に取り組めます。



- 県内では、御嶽海関をイメージキャラクターにした畜産酪農キャンペーンを実施します。
また、特色ある「信州産」牛乳、乳製品を開発、販売します。
- (2) 地域の実情に合った飼料用米流通の仕組みづくり
平成29年度1,500トンを目標とします。
- (3) ＪＡ東日本くみあい飼料㈱と連携した生産性向上巡回の継続
全国本部も共に取り組む中核農家プロジェクト会議を開催します。

地域畜産酪農営農センターの拡充

- (1) 東信地域、伊那地域でのセンター構想を検討します。

- (2) 北信、中信各畜産酪農営農センターの機能発揮を図ります。
- 県本部生産農場の機能発揮ならびに経営体質の強化

- (1) ハケ岳牧場は、年間30頭の育成牛買い取りを進め、20頭の初妊牛上場を目指します。
- (2) 三岳牧場は、ＥＴ事業を活用した和子牛販売年間70頭を計画しています。
- (3) ＳＰＦ豚繁殖センターは、年間21,800頭の仔猪販売を目指します。

食肉処理施設のあり方と合意形成

- (1) 県下食肉処理施設については、そのあり方について関係者協議による合意形成を図ります。



中期事業計画(平成28～30年度)

自己改革の進捗状況について

全農長野県本部は、ＪＡおよび子会社とともに、ＪＡ自己改革の進展を加速化させ、農業所得の増大と地域の活性化に取り組んでいます。

Ⅰ. 【自己改革における最重点施策】 平成29年3月末時点での総括

その1 ▼ 営農支援体制の充実《担い手に対する出向く体制強化および労働力確保》

- (1) 「出向く体制」整備に向けた対策会議を全ＪＡと開催し、品目別(28年度果実、ポトムアップ研修会や指導者会議ブロック別検討会等の研修会を通して若手・中堅営農指導員のレベルアップを図りました。労働力確保については、継続的に情報交換を行いながら対策を具体化していきます。
- (2) ＪＡと一体となった肥料・農薬の提案型推進を行い、農家戸別銘柄肥料(ＢＢ「わたしの肥料」)の利用拡大、県本部拠点から農家への肥料・農薬直行配送拡大により、担い手の多様な施肥ニーズへの対応と物流コスト削減の還元をすすめました。
- (3) 畜産・酪農では新たに生産農場を2農場稼働し、県本部生産農場での素畜供給拡充やＪＡと一体となった営農指導の強化等を通じて、素畜の不足・価格高騰に対応し生産基盤の維持に取り組みました。

その2 ▼ 農業所得の増大《ＪＡ・県域による販売力強化とコスト削減》

- (1) 価格安定のため各品目で需要に見合った計画生産・適正生産に取り組むとともに、生産者手取りの確保に向けた様々な生産振興・販売提案を展開しました。消費地では積極的な消費宣伝活動(対面宣伝会…延べ約7,470回実施)を行うとともに、総合宣伝の発信力強化(三山マーク・信州力を使用したロゴ・宣伝資材の統一)による長野県産畜産物ブランドの強化に努めました。
- (2) 生産資材では、コスト低減や販売力強化に資する付加価値の向上等、農家・ＪＡのニーズに応える製品開発・普及を実施しました。また、農機の低コスト利用形態として、平成29年度本格稼働に向けた県域農機レンタル事業体制を構築しました。

その3 ▼ ライフラインの充実《地域生活基盤整備》

- (1) 効率的な事業運営による地域の生活物流・サービス維持のため、マスタープランによる拠点の再構築に取り組み、ＪＡ・子会社等と一体となった事業展開を図りました。
- (2) 宅配・配置家庭菜においては、ＪＡと連携した利用者拡大キャンペーン等を実施し、認知度の向上を図るとともに、効果的なサービスメニューの提案を行いました。

Ⅱ. 各事業別 平成29年3月末進捗状況

【ＪＡ長野県営農センター】

実行具休策

28年度計画

3月末進捗状況

達成度合いと今後の進め方

1. 中心的担い手の育成・支援

(1) ＪＡと県域の出向く体制整備	全ＪＡ
(2) 労働力確保情報交換会等の開催	4回
(3) 指導者会議 ブロック別検討会開催	20回
(1) 担い手アンケートにもとづく指導体制強化	6ＪＡ
(2) 品目別ポトムアップ研修会開催(受講者数)	20人
(3) 指導者会議 ブロック別検討会開催	69回
(1) 営農指導体制の強化	10ＪＡ検討会実施
(2) 品目別ポトムアップ研修会開催(受講者数)	果樹3回
(3) 指導者会議 ブロック別検討会開催	12/5 第1回32名 1/18 第2回29名 2/14 第3回20名
(1) 営農指導体制の強化	システム開発など担い手対応強化に向けた県域推進の強化を進める。
(2) 労働力確保情報交換会等の開催	ＪＡでの支援事業活用支援を進める。

(1) 営農指導体制の強化	全ＪＡ
(2) 労働力確保情報交換会等の開催	4回
(3) 指導者会議 ブロック別検討会開催	20回
(1) 担い手アンケートにもとづく指導体制強化	6ＪＡ
(2) 品目別ポトムアップ研修会開催(受講者数)	20人
(3) 指導者会議 ブロック別検討会開催	69回
(1) 営農指導体制の強化	10ＪＡ検討会実施
(2) 品目別ポトムアップ研修会開催(受講者数)	果樹3回
(3) 指導者会議 ブロック別検討会開催	12/5 第1回32名 1/18 第2回29名 2/14 第3回20名
(1) 営農指導体制の強化	システム開発など担い手対応強化に向けた県域推進の強化を進める。
(2) 労働力確保情報交換会等の開催	ＪＡでの支援事業活用支援を進める。

(1) 営農指導体制の強化	全ＪＡ
(2) 労働力確保情報交換会等の開催	4回
(3) 指導者会議 ブロック別検討会開催	20回
(1) 担い手アンケートにもとづく指導体制強化	6ＪＡ
(2) 品目別ポトムアップ研修会開催(受講者数)	20人
(3) 指導者会議 ブロック別検討会開催	69回
(1) 営農指導体制の強化	10ＪＡ検討会実施
(2) 品目別ポトムアップ研修会開催(受講者数)	果樹3回
(3) 指導者会議 ブロック別検討会開催	12/5 第1回32名 1/18 第2回29名 2/14 第3回20名
(1) 営農指導体制の強化	システム開発など担い手対応強化に向けた県域推進の強化を進める。
(2) 労働力確保情報交換会等の開催	ＪＡでの支援事業活用支援を進める。

(1) 営農指導体制の強化	全ＪＡ
(2) 労働力確保情報交換会等の開催	4回
(3) 指導者会議 ブロック別検討会開催	20回
(1) 担い手アンケートにもとづく指導体制強化	6ＪＡ
(2) 品目別ポトムアップ研修会開催(受講者数)	20人
(3) 指導者会議 ブロック別検討会開催	69回
(1) 営農指導体制の強化	10ＪＡ検討会実施
(2) 品目別ポトムアップ研修会開催(受講者数)	果樹3回
(3) 指導者会議 ブロック別検討会開催	12/5 第1回32名 1/18 第2回29名 2/14 第3回20名
(1) 営農指導体制の強化	システム開発など担い手対応強化に向けた県域推進の強化を進める。
(2) 労働力確保情報交換会等の開催	ＪＡでの支援事業活用支援を進める。

【畜産酪農部】				
実行具体策		28年度計画	3月末進捗状況	達成度合いと今後の進め方
1. 生産基盤の維持確保				
(1)空舎利用による生産農場の稼働	2農場	2農場稼働	J Aみなみ信州、J A佐久浅間	
(2)生乳出荷量の確保	100,000t	97,291t	8～11月単月で前年を上回るも、農家戸数20戸減少の影響で減産となる。	
2. 信州産ブランドの確立				
(1)信州プレミアム牛肉の販売促進	2,300頭	1,909頭	子牛価格高騰による導入頭数の減。空舎利用および集荷強化による頭数確保に努める。	
(2)特色ある「信州産」牛乳・乳製品の商品開発・販売	開発・販売	松本山雅牛乳使用ソフトクリーム販売	真田丸・御柱祭に絡めた農協牛乳キャンペーンを実施した。農協牛乳、松本山雅牛乳キャンペーンを継続実施する。	
3. 飼料用米の流通体制の確立				
(1)流通数量	2,000t	12,000t	平成28年産米1,200tを確保。地域の実情に応じた流通体制の確立。	
4. 地域畜産酪農営農センターの設置				
(1)進捗状況	1箇所検討	2箇所検討	具体的検討（JA別に課題整理等）に着手している。	
5. 県本部生産農場の素畜供給機能拡充				
(1)素牛販売頭数（二丘牧場）	35頭	47頭	優良血統繁殖牛の県内保留拡大を進める。	
(2)素子豚供給頭数（SPF豚繁殖センター）	21,500頭	21,776頭	衛生対策及び子豚事故防止により出荷頭数を確保する。	
(3)初妊牛上場頭数（ハケ岳牧場）	10頭	9頭	県内育成牛の購買推進と併せ、中央家畜市場への初妊牛上場頭数の増加を図る。	

【生産販売部】				
実行具体策		28年度計画	3月末進捗状況	達成度合いと今後の進め方
1. 生産基盤の維持・拡大				
(1)多収穫・省力栽培による規模拡大 ①コギクの生産拡大 ②加工業務用野菜の拡大推進	①165万本 ②キャベツ1,000t	①224万本 ②キャベツ1,065t	①旧益・秋彼岸出荷を含めた振興対策実施。 ②省力化を目的とした収穫機械導入を進める。	
(2)計画・適正生産の推進 ①リンゴ早生種(長果25等)早期産地化 ②夏ハクサイの適正生産 ③レタス生産力維持	①新規1万本 ②220万ケース ③1,300万ケース	①1万本 ②258万ケース ③1,318万ケース	①安定生産技術および予約生産体制の確立。 ②計画を超過したため、数量抑制の啓発と作物転換をすすめる。 ③次年度の安定生産対策を検討。	
2. 集出荷対策の向上				
(1)多様な生産者(大規模農家・法人・系統外含む)への販売企画提案	リスト作成・新規4件	法人リスト作成	・果実、きのこについてはそれぞれ数件、提案推進中。 ・加工業務用キャベツの米地帯への推進は、次年度に向け、本年度の状況を検証して進める。 ・加工用セルリーの継続試験を実施。次年度は実用化に向けた試験を継続する。	
3. 商品提供力の強化				
(1)多様な販売手法への取組 ①リンゴ長期貯蔵販売の拡大 (2)加工・業務需要、輸出事業への対応強化 ①リンゴ輸出専用栽培の推進 (3)総合品目宣伝による認知度向上	①8,000コンテナ ①検討 実施	①15,000コンテナ ①試験終了 実施	収穫基準の統一による品質向上を図っていく。 行政とともに結果検証を行っていく。	
4. J A・県本部一体となった長野米集荷推進の実施と販売力強化				
(1)集荷重量	80,000t	76,200t	計画には達しなかったが、概算金の増、集荷奨励等を通じて、出荷契約数量を上回る集荷となった。	

【生活部】				
実行員体策		28年度計画	3月末進捗状況	達成度合いと今後の進め方
1. 石油取扱数量の確保				
取扱数量	324,000kl	319,729kl	灯油および揮発油の特別対策を実施して、取扱数量の維持を図った。29年度も系統結集に向けた推進に取り組む。	
2. ガス取扱数量の確保				
取扱数量	19,800t	19,486t	供給戸数減少が続く環境のなか、戸当たり消費量の拡大を図って取扱数量確保に努めた。今後は保安指導の強化と、環境変化に対応した事業体制構築を進める。	
3. 自動車取扱台数の確保				
取扱台数	3,000台	2,552台	営農車を中心に推進施策を展開し取扱台数確保に努めた。29年度は今後の営農車事業のあり方を協議して県域結集を図る。	
4. SS協同経営販売数量の確保				
販売数量	95,342kl	96,324kl	統一及び独自供給促進に取組み販売強化に努めた結果、計画を達成した。今後も継続して拡販施策等に取り組む。	
5. 宅配おまかせ会員戸数の維持				
会員戸数	7,800戸	7,048戸	利用者は高齢化に伴い減少傾向であるが、JA等と連携し、利用者懇談会や女性部組織の協力による事業PRを強化する。	
6. 家庭薬配置戸数の確保				
配置戸数	95,000戸	91,554戸	配置戸数は高齢化に伴い減少傾向であるが、健康増進事業としてPRし、配置体制の確保とJAと協力連携した推進を行う。	
7. セレモニー県域施行件数の確保				
施行件数	3,400件	3,743件	共同運営斎場の増加により施行件数は増加した。今後も小規模葬・直葬への対応を図る一方、セレモニー会員獲得に向けた新たなメリット創出を検討する。	

【生産購買部】				
実行具体策		28年度計画	3月末進捗状況	達成度合いと今後の進め方
1. 販売と連携した包材の開発普及				
(1) 段ボール原紙アイテムの集約 (累計アイテム数)	3アイテム	5アイテム	小ロットアイテムの整理を進めた。さらなる集約に向けて継続推進する。	
(2) 流通から小売までの潜在的なニーズを捉えた包装資材の開発	2JAで採用	2JAで採用	採用された新形態を他JAへも紹介し、別の形態についても提案・試験を継続する。	
2. 肥料農薬の担い手推進				
(1) 「わたしの肥料」の拡大	2,200t	2,621t	東信地区を中心に利用農家が拡大した。	
(2) BB肥料工場・農家直行方式の拡大(単肥との積み合せ配送)	2,000t	2,534t	BB肥料中心だが、単肥との積み合せの拡大を図る。	
(3) 担い手向け超大型規格農薬のメーカー・農家間直送の提案推進	水稻剤450ha	水稻剤895ha	商品ラインナップ拡充と低利用大規模農家からの受注拡大により目標を上回った。	
3. 農機コスト低減の取り組み				
(1) トラクター等の県域推奨型式設定による取扱重点化	1型式	1型式	県域推奨型式研究委員会を立ち上げ検討会を実施。トラクター11型式を決定した。JAから3月末までに予約受注し、5月より組合員供給開始予定。	
(2) 中古農機の流通促進、レンタルの事業化	検討・施行	・不要農機査定・買取希望調査実施 ・レンタル事業開始	・今後、協同経営JAにおいて不要農機の買取をすすめ、段階的に水平展開する。 ・3月にトラクター2台を取得。事業目的の共有化によるJA関係部署と連携した推進を図る。	

長野県体育協会に 長野米2・5トンなどを寄贈

全農長野県本部生産販売部は、「県内スポーツ選手の強化に役立ち、たくましい選手が育つように」と長野米コシヒカリなどを（公財）長野県体育協会に寄贈しました。寄贈したのは長野米コシヒカリ2・5トン、信州りんごジュース3,000本、ふるさとのなめ苺茶漬け1,500本。平成11年から開始し、今年で19年目の取組みです。

4月26日（水）の贈呈式で、畠田武司副本部長が県体育協会の林泰章理事長に目録を手渡しました。林理事長は「毎年のご支援により、選手たちは各大会で活躍し、戦績を残しました。贈呈の趣旨に沿うよう、有効に活用します」とお礼を述べました。畠田副本部長は「選手、チームから毎年お礼状をいただきます。すばらしい戦績に貢献できていると思うとうれしく思います。今後も、期待を込めて贈呈していきたい」と話しました。



林理事長（左）に長野米を手渡す畠田副本部長（右）

提供先団体

所属団体名	種目
木曽少年相撲クラブ	相撲クラブ
上田西高等学校	レスリング部
飯山高等学校	スキー部
伊那西高等学校	新体操クラブ
軽井沢高等学校	アイスホッケー部
佐久長聖高等学校	駅伝部
佐久長聖高等学校	スケート部
創造学園高等学校	男子バレーボール部
長野東高等学校	陸上部
長野市立長野高等学校	スケート部
東海大学付属諏訪高等学校	男子バスケットボール部
東京都市大学塩尻高等学校	女子バレーボール部
松本第一高等学校	柔道部

「第1回協同経営 SSマネージャー 全体会議」を開催

全農長野県本部SS協同経営課は4月17日（月）、平成29年度のスタートにあたり「第1回協同経営SSマネージャー全体会議」を開催しました。

会議の冒頭に真島茂夫副本部長から「事業環境は厳しいが、お客様への接客を大事にして生き残るSSになるために、マネージャーがスタッフの手下となつて欲しい」との挨拶がありました。また、山崎進部長から「生活部長方針」および重要取組事項「SS（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）活動への取り組み」を全体で確認し、改めて仕事の基本について考える場となりました。

全体会議では、平成28年度の総括を踏まえ、本年度の事業計画および取組内容、コンプライアンスと経理・人事労務業務について再確認を行ったほか、本年度から取り組む人事制度改革について協議しました。人事制度においてはスタッフの資質およびモチベーション向上、適正な評価と処遇によるSSへの定着を目的に、職務等級評価制度の見直し、個人目標管理制度の導入、嘱託職員登用制度の見直し、無期雇用転換対応としての規則改定などを行います。制度の適正な運用をはかることによりスタッフの定着化につなげ、SSサービスの更なる向上を目指していきます。



「第2回ナガノ きのこ大祭」に出展

全農長野県本部は4月22日（土）と23日（日）の両日、長野市ビッグハットで行われた「第2回ナガノきのこ大祭」に出展しました。

今年のきのこ大祭のテーマ「愛でる」「見る・学ぶ」に合わせ、「愛でる」では段ボールで作ったきのこの巨大オブジェを展示し、きのこのぬり絵ができる「きのこ広場」を作りました。「見る・学ぶ」では当県本部ホームページにきのこのクイズに挑戦しながらきのこの基礎知識を学べる特設サイトを設け、来場者は段ボール製の座卓に座りタブレット端末できのこのクイズに挑戦しました。

また、JAながのによる「きのこのもぎ取り体験」、レシピサイトクックパッドのJA全農長野のキッチンで公開中の「きのこ味噌」の試食、（一社）長野県農村工業研究所による「きのこのうま味スープ」の試食も行いました。

両日とも多くの来場者で賑わい、長野県産きのこを身近に感じてもらうイベントとなりました。



グループ会社紹介

株式会社 全農長野計算センター

1. 主要な業務内容

- ・システム企画開発業務
- ・コンピュータシステムに関する業務の受託
- ・コンピュータシステムに関する入力原票の処理業務
- ・ソフトウェア・ハードウェアの販売業務
- ・ハードウェアの設置工事
- ・LANの設計・構築

2. 事業方針

全農長野県本部グループの情報処理専門会社として、システム開発や運用を通じて、長野県JAの経済事業の発展に寄与する事を目指しています。

3. 会社のアピールポイント

当社は今年で創立37周年を迎えます。現在は出向、派遣も含め社員数は25名

と規模は小さいものの、システム開発・運用について確かな実績があります。

インフラ面においても全農長野県本部グループの各拠点ネットワーク構築と管理、パソコン・プリンタ・サーバ等のハード導入を手掛けさせて頂いています。

社内の雰囲気はアットホームで、社員で運営する親睦会という組織があり、レクリエーション等も活発に行われています。

4. 会社の課題と対応

会社の機能アップを図るため、新技術に対応したハード・ソフトの導入や技術研修に積極的に取り組むとともに、事業継承のため、採用計画を立て、採用活動を始めました。本年2名の新採用職員が入社しました。よろしくお願いたします。

事業活動については、「計画的、組織的、スピーディー」を合言葉に、全体計画は事業計画を元に経営会議で優

先順位を決め、グループ別に毎朝当日行うタスクと、業務の進捗を共有化しています。また、毎週木曜日には社内進捗会議を行い、グループ間で進捗状況の共有化を図り、大きな課題については企画会議で対策を協議するようにしています。

また、グループ各社の課題やニーズについては、定期的な定例会をとおして聞かせていただくとともに、法改正等で共通的にシステム対応が必要な事項は、県本部グループ会社のシステム担当者懇談会を開催し情報提供をしています。

まだまだ各社員のスキル不足で十分要望にお答えできないことも多く、ご期待に添えていないことが課題ですが、一步一步着実に機能をアップさせ、誠意を持って対応していきますのでご指導くださるようお願いいたします。

社長あいさつ

当社は、昭和55年4月11日に長野県経済連の電子計算機に関する運用業務の受託及び入力原票のエントリー業務を行うことを主たる目的として設立して以来、業務を拡大して、システム開発を主体的に担うようになり、平成7年からは富士通（株）販売社としてハード・ソ



フトの販売等にも携わり36年が経過しました。

平成13年に株主が、長野県経済連から全農に変わりましたが、全農長野県本部・グループ会社・関係取引先の皆様の暖かいご支援・ご協力を賜り、今日があることに対し心より感謝し御礼申し上げます。

今後も県本部グループの総合経営管理の堅持と系統系経済事業に貢献できる顧客目線に立ったシステム開発やサービスの提供を行っていく所存ですので、関係各位のご支援・ご鞭撻をお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

6月の動き▶

総合企画部	グループ会社定時株主総会	
	6/22(木)	㈱全農長野計算センター ㈱JAアグリエール長野 ㈱マイバール長野 ㈱ジェイエイオート長野 長野県農協直販㈱ ㈱長野エーコープサプライ
	6/26(月)	㈱長野県食肉公社
生産販売部	6/30(金)	㈱長野県A・コープ (一社) 長野県農村工業研究所
	6/1(木)	平成29年度長野県青果物・ 花き取り引き会議 ホテルメトロポリタン長野
	6/1(木)	信州の旬を楽しもう! ～6月は牛乳月間～ 長野市子ども広場じゃん・けん・ぽん 子育て広場を利用する乳幼児と保護者に牛乳を飲む大切さを説明し、牛乳200mlパック10本を配布します
生産販売企画課	JA長野県 農産物PR協議会	
生産販売企画課	6/17(土)	野菜ソムリエKAORUと信州の 旬を楽しもうin銀座NAGANO 東京・銀座NAGANO
	実施中～ 6/13(火)	春レタスキャンペーン
	6/14(水)～ 8/17(木)	夏野菜キャンペーン
酪農課	7/1(土)	産地応援一斉宣伝会 東京、名古屋、大阪
	6/4(日)	松本山雅FCホームゲーム・牛乳 PRイベント アルウィン
	6/17(土)	牛乳セミナー 小諸市文化センター・文化会館 ※詳細は裏表紙をご覧ください
畜産課	6/8(木)	6月期長野県中央家畜市場 長野県中央家畜市場

6月のラジオ番組表▶

放送日時	放送局	番組名	放送内容(予定)
6/6(火) 16:10	SBCラジオ	情報わんさかGO!GO!ワイドらじ☆カン内「ミルクマガジン」	牛乳月間イベントの様子
6/13(火) 16:10	SBCラジオ	情報わんさかGO!GO!ワイドらじ☆カン内「ミルクマガジン」	運動と牛乳(信州大学 能勢教授出演)
6/20(火) 16:10	SBCラジオ	情報わんさかGO!GO!ワイドらじ☆カン内「ミルクマガジン」	牛乳クイズ
6/27(火) 16:10	SBCラジオ	情報わんさかGO!GO!ワイドらじ☆カン内「ミルクマガジン」	牛乳セミナーの様子
6/29(木) 10:13	SBCラジオ	坂ちゃんのすくだせえぶりでい内「ラジオカーレポート」	ブラム

JA全農長野の事業現況▶

平成29年度4月末部門別実績表 (単位:百万円,%)

部門	区分	実績	計画比	前年比
米	穀	1,510	84	87
果	実	38	73	70
野菜花き		579	71	75
野菜種苗センター		38	120	103
きのこ		1,197	98	91
営 業		310	92	98
生産販売部計		3,672	86	87
包装資材		466	98	93
生産資材		1,707	111	92
農業機械		601	98	86
施設住宅		402	98	85
生産購買部計		3,175	105	90
畜 産		1,520	121	100
三 岳 牧 場		44	167	137
SPF繁殖センター		18	79	72
酪 農		1,113	105	95
ハ ケ 岳 牧 場		21	88	97
畜産酪農部計		2,716	114	98
燃料・ホームエネルギー		2,083	127	116
S S 協 同 経 営		982	142	134
生 活 活		1,085	117	100
生活部計		4,149	127	114
長野県本部計		13,712	106	97

(内部販売高含む)



5月場所を前に、御嶽海閣に県産農畜産物を贈呈しました

編集後記

5月に入り花粉の飛散もなくなったのか、私の花粉症も治まりました。

毎年春はスギ花粉に悩まされるのですが、今年は花粉の飛散も少なかったのでしょうか？昨年と比較すれば、それほど症状はひどくなくなりました。

読者の皆さんの中にも花粉症に悩まされている方も多いと思います。私は今年シーズン前に医者に行ったのですが、それも効果があったようです。様々な原因物質がある花粉症ですので発症する時期もいろいろだと思いますが、悩まれている皆さん、早めに医者に行き自分の症状にあった薬を出してもらいましょう。効果が大きいと思います。

さて5月も中旬になり、25℃以上など温度の高い日も出てきました。また雨の日も多い気がします。衣替えの季節ですので薄着にもなりますが、皆さん風邪など引かないように体調管理に注意してお過ごしください。

(K)

新採用職員紹介

【生産資材課 受発注センター 山崎 真侑】

はじめまして。生産資材課の山崎真侑と申します。出身は上田市です。受発注センターの業務は肥料農薬に関して全農長野の窓口にもなっているということに責任を持ち、日々の業務に取り組みたいと考えております。まだまだ分からないことばかりですが一日も早くお役に立てるように努力してまいります。ご指導よろしくお願い致します。



農薬散布時は「カップ天国」がおすすめです

【生産販売部 果実課 河合 佑真】

はじめまして。果実課の河合佑真と申します。出身は愛知県です。趣味は学生時代から続けている陸上と長野県巡りです！配属されて一ヶ月が経ち、まだまだ分からないことも多いですが、任された仕事は精一杯取り組み、一日でも早く大好きな長野県の農業に貢献できるよう努力して参ります。よろしくお願いします！



オススメの温泉は上田市の「ささらの湯」です

A-Board

果実課からのお知らせ

信州の巨峰果汁を練り込んだ、地区限定のコロン
〈信州巨峰クリームコロン〉新発売のお知らせ

江崎グリコ株式会社より、〈信州巨峰クリームコロン〉が新発売されました。JA長野県グループから原料供給した信州産の巨峰果汁を練り込んだクリームが、ワッフルで包まれています。巨峰のやさしい甘さと酸味が口の中で広がる、信越地区限定のおいしさです。信州のおみやげにぜひご利用ください。

【商品名】 信州巨峰クリームコロン(信越地区限定発売)

【内容量】 6箱

【希望小売価格】 600円(税別)



ミルクマガジン 牛乳セミナー

今日からはじめる乳和食

牛乳と減塩で
美味しく
健康的な食生活♪

日時 2017年
6/17 土

13:30~16:00 [開場12:30]

場所 **小諸市文化センター**
(乙女湖公園内) 小諸市乙女甲1275

先着200名《要事前申込》

**入場
無料**

基調講演

演題 **乳和食**
牛乳で美味しく減塩

講師 料理家・管理栄養士

小山 浩子氏



講師プロフィール ■大手食品メーカー勤務を経て2003年フリーに。出張スタイルの料理教室を立ち上げ、コーディネート兼講師として活動。ミルクを使った料理レシピの研究・開発に20年以上取り組む。現在は100会場以上の講演と出張料理教室、企業のメニュー開発、雑誌へのレシピ提供、栄養コラム執筆、テレビ出演等幅広く活動し、「ミルクのある暮らし」を提唱している。著作も多数あり、「目からウロコのおいしい減塩「乳和食」」(社会保険出版社)で2014年グルマン世界料理本大賞イノベティブ部門世界第2位を受賞。健康と作りやすさに配慮したオリジナルレシピにファンも多い。2015年1月、日本高血圧協会理事に就任。メディアで話題の乳和食の開発者でもある。

料理実演

「いつもの料理」+
「牛乳」の
カンタンメニュー

ご家庭で簡単にできる「乳和食」を
小山先生が料理実演



■ミルク肉じゃが



■ミルク天ぷら



■ミルク餃子

総司会

SBC信越放送
山崎昭夫
アナウンサー

「すくたせテレビ」中継リポーター
「情報わんさか GO!GO!ワイド
らじ☆カン」(毎週 木・金曜)



イベント

県内各地の牛乳や
ヨーグルト等の
試飲&試食

アトラクション
クイズに答えてプレゼントをゲット!!



会場案内図



電車 ●北越新幹線佐久平駅下り線、しなの鉄道小諸駅上り線～小諸駅乗り換え～乙女駅下車(徒歩3分)
 お車 ●上信越自動車道 佐久ICから20分、小諸ICから20分

お問い合わせ先

JA全農長野 酪農課 ☎026-236-2382

〒380-8614 長野市南長野北石堂町1177-3 (月～金9:00～16:00 担当/神田、中山)

主催



光と風と水のハーモニー

JA全農長野 / 長野県牛乳普及協会 / 長野県生乳生産販売委員会

共催

SBC信越放送 / 東海酪連

後援 ■長野県 / 小諸市 / 長野県教育委員会 / 小諸市教育委員会 / 長野県学校保健会栄養教諭・学校栄養職員部会 / JA長野中央会 / JA長野厚生連
 長野県農協健康組合 / 長野県乳業協会 / JA佐久浅間 / JA信州うた / JA長野八ヶ岳 / JA東日本くみあい飼料株 / JAまごころ宅配



光と風と水のハーモニー

JA全農長野

JA全農長野ホームページ <http://www.nn.zennoh.or.jp>

インターネットで産地直送「JAタウン」 <http://www.ja-town.com>

